

致知

Vol.2



社内木鶏会で
我が社はこう変わった

人間学の社員教育

〈社内木鶏会のすすめ〉

「社内木鶏会」とは？



『致知』を社員教育に

月刊誌『致知』をテキストに、会社内で人間学を学ぶ月例の社内勉強会が、「社内木鶏会」です。

現在、業種業界・会社規模を問わず、国内外**1200社**の企業様で導入され、

「社内に一体感が出てきた」

「お互いのことを理解し、協力し合う社風が生まれ、辞めていく社員がほとんどいなくなった」

「学びが全社に浸透していく中で、業績も順調に伸びている」など、

成功事例や喜びの声が全国からあがっています。

社内木鶏会導入の3のメリット

1 社長の考えが深く理解できる

2 社風が良くなる

3 真の人間教育ができる



社内木鶏会で身につく5つの力



1 本を読む力

毎月『致知』を読むことで、次第に文章を読む力が身に付き言葉に敏感になります。



2 文章を書く力

『致知』を読んだ感想文を書くことで、自分が伝えたい思いを文章にまとめることができるようになります。



3 スピーチする力

人前に立って発表する訓練、1分間で話す訓練によって、堂々と自分の意見が言えるようになります。



4 人の話を聴く力

仲間の感想文をしっかりと聴く訓練を通して、傾聴力が身に付きます。



5 人の長所を見つける力

仲間の感想文から、仲間の長所を見つけ、言葉で伝えます。仲間の素晴らしさに気づき、お互いに認め合い尊敬し合う良い関係を築くことができます。



社内木鶏会3つのポイント

ポイント1

社員一人につき
年間10,500円
※『致知』購読料のみ

ポイント2

毎月1回1時間
で出来る！

ポイント3

3名の企業様から
導入可能！



**初回導入時は全国どこへでも
弊社社員が社内木鶏会立上げに参ります。**

※初回導入時は、弊社の社内木鶏担当社員が
社員様にもわかりやすく
『致知』や「社内木鶏会」のご説明、
やり方をしっかりとお伝えし、
「社内木鶏会」の司会進行をさせていただきます。
(※費用はかかりません)

すべて安心してお任せください！

社内木鶏は現代の寺子屋です

『致知』をテキストに社員全員で学び合い、それぞれの会社が変化成長していく社内木鶏の体験談を聞かせていただくたびに、いつも二つの言葉を思い出します。

一つは道元の言葉です。

「霧の中を歩めば覚えざるに衣しめる

よき人に交われば覚えざるによき人になるなり」

霧の中を歩いていると、いつの間にか衣が湿っているように、よい人に交わっているといつの間にか自分も人格が向上していく、ということなのです。

もう一つは松下幸之助さんの言葉です。

「一人のめざめは百人に及び

百人のめざめは千人に及び

千人のめざめは社会全体に及ぶ」

社内木鶏会を通じてよき社風づくりに取り組まれる
一人の社長のめざめが、社員のめざめにつながり、
会社を変え、地域も変えていく。

社内木鶏会の実践はまさにこの二つの言葉を
そのまま実証しているように思います。

『致知』を難しいという人に、

私は以前、こんな風に話をしたことがあります。

『致知』は難しくない。『致知』という表紙のロゴをみた瞬間、脳が難しそうと思ってしまう時代環境の中に生きているから難しいと思ってしまう。

自転車でも練習しなければ乗れるようにならない。

それと同じで、『致知』も読む練習をすることでおもしろくなり、続けると、その妙味が増してくる」

社内木鶏会の体験談の中には、

自分の仕事に誇りを持たず、上司に対しても反抗的で、社内木鶏会にもイヤイヤ参加し、

『致知』の感想文も一、二行しか書けなかった人が、
いまでは用紙一杯に書けるようになり、

文章を読んで感じる心、文章力も付いてきた、
と喜びにみちた感想文を書いてくれています。

「人人の心の中に明德と名づけたる無価の宝あり。

これを性命のたからと云、天下第一の宝なり」

と中江藤樹はいつています。

どんな人の心の中にも、値段の付けられないすばらしい宝がある。
それは明德という宝だと藤樹はいうのです。

社内木鶏会は、まさに参加する人たちの心の中に眠っている
この明德を明らかにしていく道場です。

致知出版社

代表取締役社長 藤尾 秀昭

社内木鶏会に取り組んでいる企業様が成功事例を発表される

「社内木鶏全国大会」を毎年開催しています。

過去の大会の中から発表感想文の一部をご紹介します。



「直接顔を見ていなくとも、社員一人ひとりの気持ちや

成長を、手に取るように感じる」ことができる感想文」

株式会社 浜屋 代表取締役 小林 茂

私は高校卒業後、京王プラザホテルに入社したものの、僅か10か月間で退職、その後26歳で結婚するまでに、15もの職を転々としました。

ギャンブルにもどつぷりとつかり、時には繁華街で喧嘩をし、出血多量で運が悪ければ死ぬような傷を負ったこともあります。

ある時、私が重い病気で寝こんでいると、当時付き合っていた今の妻が「入院代は私が払うから病院に行こう」と会社を休んで私を無理やり病院に連れて行きました。

そんな妻と結婚することを決意し、取消になっていた運転免許を取り直し、再度、タクシーの運転手になりました。今度は自分だけの生活ではないので続くだろうと思いました。前と同じで半年で辞めてしまいました。

勤め人が続かない自分に残された道は独立するしかなく、当時、貯金なんて一銭もなかった私は、妻の貯金で中古トラックを買い、鉄屑回収の仕事を始めました。当座の運転資金も、全て妻の貯金で賄うなど、妻と、妻の母親には感謝し切れません。

こうして、仕方なく始めた仕事ですが、誰の指示でもなく、自分で考えて行動するというのは本当に面白く、「ああ、仕事というのは自分から進んでやることで楽しくなるんだなあ」と初めて気づきました。

また、もう一つ気づいたことは、近くでぶつきらばうな問屋と、遠くても番頭さんがいつも喜び、商品を褒めてくれる問屋、もし買取価格が同じだったら、私は時間が許す限り、後者の問屋に行きました。たとえば、家に帰る時間が遅くなったとしても、

番頭さんの喜ぶ顔見たさに納品しにいったのです。

私はその後、回収業から商品を買取取る側に事業転換しましたが、回収業者時代に感じたこの思い、つまり「人は潜在意識の中で誰かを喜ばせたいと思っ生きてる」ということを信条とし、浜屋を喜ばせるために来てくださっているお客様に感謝の気持ちをしつかりと伝えられる会社になりたいと思い、今日まで歩んできました。

そんな私が『致知』と出会ったのは今から16年前、ある人から1年間『致知』をプレゼントしていただいたことがキツカケでした。初めて『致知』を読んだとき、

「世の中にこんな雑誌があつたのか」と衝撃を受けました。電車の中で、涙を隠しながら読んだことが何度も有ります。例えば、2005年3月号の記事。

終戦後、身に覚えのないスパイ容疑でシベリアに抑留され、日本に妻子を残しながら51年間、過酷な強制労働に耐えた蜂谷さんと、それを支え続けたクラウディアさん。人間というのはこんなにも強く、そして優しくなれるものかと、感動したことを

今でも鮮明に覚えています。こうして『致知』と出会い、知ったこと、感じたことは間違いなく私の血となり肉となり、私を成長させてくれました。

そんな『致知』を一人でも多くの社員や知り合いに読んで欲しいと思い、リーマンショック後から5年間、毎年、社員や友人、お客様約20名に『致知』の年間購読のプレゼントをしました。

しかし、その後、自分で買って読んでいる人はたった3名しかいなく、非常に残念に思いました。

確かに『致知』は堅く、最初のハードルが少し高く感じますが、読めば必ず価値をわかってもらえるはずだ、という確信が有り、6年前に社内木鶏会を始めました。

木鶏会に参加するためには『致知』を読まなければならない。これが、私が木鶏会を導入した一番の理由です。以来、私の元には毎月、全国の社員から感想文が届くよ

うになりましたが、直接顔を見ていなくとも、社員一人ひとりの気持ちや成長を、手に取るように感じることが出来ます。

中でも、日系ブラジル人のイヤネリー君は、毎月、辞書で漢字の意味を調べ、フリガナをふりながら一生懸命『致知』を読み、感想文を書いています。その姿は、私だけでなく他の社員にも大きな感動を与えています。

また、木鶏会では、普段の会話では知りえない、社員の真実を聞き、思わず涙してしまうこともあります。木鶏会を始めて本当に良かった、と心から思っています。

冒頭にも申しましたが、正直、私自身、普通の人より劣っているところがたくさんあります。しかし、私も含め、人はそれぞれ違うところに才能が有り、リーダーシップが有る人、商品知識がすごい人など、様々です。

役職や立場に関係なく、社員一人ひとりが力を持ち寄り、その力を存分に発揮してくれれば「100点満点の会社を作れる」と、私は心から信じています。

木鶏会の「美点凝視」の精神を忘れず、社員一人ひとりが仲間の素晴らしさ、お客様の素晴らしさに気づき、感謝を伝え合えるような会社を目指し、今後も『致知』に学んで参ります。

最後になりますが、こんな頼りない私についてきてくれている社員のみんな、そして愚痴ひとつ言わず40年間、私を支え続けてきてくれた妻にこの場を借りて、感謝を伝えたいと思います。

「いつも、本当にありがとうございます」

ご清聴、ありがとうございました。

「自分の心が変われば、子供の幸せに繋がる。」

その事を教えてくれたのが、『致知』



株式会社 浜屋 社員代表 大友 志穂

私が浜屋と出会ったのは18年前、23歳の時。主人が私との結婚を機に就職した会社が浜屋でした。

しかし、入社が決まった矢先、結婚の後押しをしてくれた主人の母の体に末期の癌が見つかりました。余命半年と聞いた時には、頭が真っ白になり泣き崩れたことを覚えています。

しかし幸いにも、その後すぐ子供を授かっている事が分かり、1年後、長男が誕生した3日後に安心するかのように息を引き取りました。

当時、息子が生まれた喜びと最愛の母を失った悲しみで、夫も私も放心状態でした。そんな時、浜屋に入社し間もない一社員だった主人を心配し、小林社長が埼玉から仙台にわざわざ駆けつけてくださったのです。その姿に深い愛情を感じ、それ以降、夫の口癖は【俺は浜屋に骨を埋める】になりました。

今回、全国大会に出場が決まり、私が代表に選ばれた際、一番最初に浮かんだのは、小林社長の姿でした。いつも私たち社員のことを一番に思ってくださいる小林社長を、我が社の社員は全員、大好きです。

そんな小林社長が、私たち社員の幸せのために『致知』を読んで欲しいと木鶏会を導入してくださったおかげで、社内には様々な変化、感動が生まれました。

今回は、私自身が『致知』に、そして木鶏会に助けられ、感謝していることを話したいと思います。

今から8年前、長男が小学2年生の時に仙台支店から千葉支店へ転勤、その3年後には埼玉の本社に転勤することになりました。2度目の転校の際、ふと長男が『転校はもう嫌だなあ』と小さい声で言ったのが聞こえたのですが、私は『次は、またきつと沢山の友達に会えるよ』と、息子の寂しい気持ちに蓋をするが如く、親の都合を押し付けてしまいました。

転校先では、周りに上手く馴染むことができず、学校から呼び出されたり、学校を休みがちになりました。息子にこうあつて欲しいと思う気持ちと現実のギャップに悩み、厳しくあたつてしまう日々がつづきました。

中3の夏からは不登校となり、私も主人もどうしていいのかわからなくなっていました。そんな時、『致知』を読みながら、私の心を解きほぐすような言葉が目に見え、飛び込んできたのです。

自分と同じ不登校の子供を抱えたお母さんに、鈴木秀子先生が伝えた言葉。

「あなたのお子さんは、本当に親孝行な子ですね。お母さんに何かを気付かせようとしているのでしょう」この言葉を目にした瞬間、それまで世間の目ばかりを気にして、私の一人よがりな価値観を押し付けてきたことで、息子の心を傷つけてしまっていたことに思い至り、涙が止まりませんでした。

私の息子は、心が綺麗な、誰にでも誇れる息子です。そんな息子の本音に、心の耳を澄ますことできなかった自分が情けなく、『ごめんね』と、心から思った瞬間でした。

長男は、この4月から高校に入学しました。自分の夢を実現するために志望した学校に、毎日楽しそうに通う息子の姿を見ながら、息子の幸せこそ自分の幸せと、改めて実感しています。

自分の心が変われば、子供の幸せに繋がる。その事を教えてくれたのが、『致知』であり、木鶏会でした。これからも、この感謝の気持ちを忘れず、素晴らしい社長、素晴らしい仲間と共に、『致知』に学び続けて参ります。



株式会社浜屋様の
社内木鶏全国大会発表動画はこちら



【会社概要】

- ・会社名 株式会社浜屋
- ・代表者 代表取締役 小林 茂
- ・社員数 346名
- ・設立 平成3年1月21日
- ・事業内容 : リユース・リサイクル事業
(都市鉱山リサイクル、ベース
メタルリサイクル他)
- ・住所 埼玉県東松山市下唐子 1594

◎月刊誌『致知』の連載「社内木鶏会で我が社はこう変わった」では、社内木鶏会を導入し、会社を蘇らせた成功事例をご紹介します。過去の記事の中から一部をご紹介します。



グリーンライフ産業 株式会社 社長 中村 太郎

社長の思いが伝わる、理想の社員教育

自然環境に配慮したエクステリアやガーデニングの設計、施工を手掛ける当社が、『致知』をテキストにした社内勉強会・社内木鶏会を導入したのは二〇〇九年のことです。そのきっかけは、創業者である父・中村和男が大阪で開催された「第一回社内木鶏全国大会」（致知出版社主催）に参加し、「我が社に必要なのはこれだ！」と心打たれたことでした。

「我が社はこう変わった」

というのも、父はそれまで自分の思いを記した冊子『我が社の生き方』を活用した社内勉強会をしていたのですが、社員にうまく伝わっていないと感じていたからです。

父は社員たちの人間力向上、教育に非常に熱心で、いつも私たちに「人間、いかに生きるべきか」を説いてくれました。おそらく、仕事を通じて自分の使命を見つけてほしいとの強い思いがあったのでしよう。ですから、『致知』を通じて各界一流の方々の生き方に触れ、学び合う社内木鶏会は、まさに父が求めていた理想の社内勉強会だったのです。

また、当時は社員数、店舗数が増えていくに従って、社員同士のコミュニケーションや会社全体のまとまりもだんだん希薄になっていた頃でしたので、全社員で集まり『致知』の感想を発表し合い、お互いのよいところを「美点凝視」で褒め合う社内木鶏会は、当社にとってタイミング的にもぴったりの勉強会でした。

『我が社の生き方』を活用した勉強会による学びの下地があったからでしょう。

第一回の開催は非常によい雰囲気で終えることができ、以後、社内木鶏会は当社の毎月恒例の勉強会として定着していきました。

父の遺志を継ぎ、社内木鶏会に学び続ける

「自分が六十五歳になったら代替わりする」という父の宣言どおり、私は二〇一二年一月、三十七歳で社長に就任しました。ところが同年十月、父はがんのため他界しました。

他界する一か月前、当社は福岡で開催された「第三回社内木鶏全国大会」に出場し、父は発表のお役目をいただいていたのですが、当日は病気のために体力が及ばず、私がスピーチ原稿を代読する運びとなりました。

壇上に立つ私の姿を車椅子に乗った父は毅然とした表情で見つめていました。いま思えば、この時が本当の意味で「自分が会社を引っ張っていかなければいけない」

と、経営を引き継ぐ者としての覚悟を固めた瞬間でした。

そして、父は後の短いスピーチの中でこう言ったのです。

「社内木鶏会と我が魂を遺して旅立ってまいります」

その父の遺志を引き継いで、私は社内木鶏会を毎月欠かさず続けてきましたが、『致知』の学びは漢方薬のようだと感じています。社内木鶏会を導入したからといって、すぐに業績が上がるということはありません。

しかし、人間学の学びは、まるで漢方薬が自然治癒力を高めていくように、ゆつくりと組織や社員の力を強くしなやかなものへと高め、その効用は一度身につけば容易に失われません。

当社も七年、八年と続けてきて、社員一人ひとりが本当に変わってきた、社風もよくなってきたことをしみじみと実感するようになりました。社内木鶏会はとにかく続けること、これが一番大事です。

父は造園業を近代化し、世のため人のために貢献したいと志して当社を創業しました。私もまた社員たちの成長と幸せ、造園業のさらなる発展のために、これからも『致知』、社内木鶏会に学び続けていく決意です。



グリーンライフ産業 株式会社様の
社内木鶏全国大会発表動画はこちら



【会社概要】

- ・会社名 グリーンライフ産業 株式会社
- ・代表者 代表取締役社長 中村 太郎
- ・社員数 82名
- ・設立 1976年
- ・事業内容 エクステリア・ガーデン・造園
設計施工
- ・住所 福岡県福岡市東区多の津 5-32-20



西精工株式会社 社長 西 泰宏

＝ 歴史、日本という視点で仕事や人生を捉える

私が『致知』読者になったのは平成二十三年、香川県高松市で致知出版社・藤尾秀昭社長の講演を聞いてからでした。話の内容が胸に迫り、すぐに購読の手続きをし、一か月後には社内木鶏会の導入を決断しました。

私はそれまでも経営理念を社内に浸透させるために、いろいろな形で社員に私の思いを発信してきました。良書も推薦し、感想文も書いてもらっていました。しかし、私自身、それだけではどこか満足できない部分があったのも確かです。社員が『致知』を読むことで仕事や人生を歴史的な視点、さらに日本全体という視野で捉え直すことも意味があると考えたのです。

早速先代に相談すると、「うちは製造業だ。そんなことをしたら皆、辞めてしまうぞ」と予想通りの答えが返ってきましたが、私は「違います。やり始めたら楽しくなるはずです」と譲りませんでした。

まずは希望者を募ろうと、現場のリーダーを通して全社員の意向を聞いたところ、驚いたことに全員が導入に賛同してくれました。私が指示したわけではないのに、抵抗がある社員を直属のリーダーである係長が説得してくれていたのです。

長年、経営理念の意義、人間力の重要性などを折に触れて話してきたためか、社内木鶏会は順調に軌道に乗りました。読後感交換を通して、部署も生まれ育った環境も違う一人ひとりの思わぬ一面に触れた時の社員の感動を目の当たりにするのは、私の大きな喜びです。

企業ですから大きなプロジェクトを成功させるのも大事でしょう。しかし、その根幹は社内木鶏会のような地道な活動を通して、社員の絆を強くすることだと私は考えています。

木鶏会で感じた、理想的な社風

忘れられない社内木鶏会の一場面があります。十年ほど前に、右手のない社員を採用しました。彼はあまり喋らないし、笑うこともありませんでした。社内木鶏会に参加するのは、きつと苦痛だったことでしょう。

ある日の社内木鶏会で、彼に発表の順番が回ってきました。皆が静かに見守る中、彼はひと言「僕は人前で話すのは苦手ですが、頑張ります」とだけ話しました。私が涙が出るほど感動したのは、その時、会場を覆っていた雰囲気です。

全員が一所懸命に耳を傾けながら、心の中で「頑張れ、頑張れ」と声援を送っているのが伝わってくるのです。その温かさ、一体感こそ私が追い求めてきた理想の社風そのものでした。

嬉しいことに、あれから七年ほど経ったいま、彼は毎日笑顔で仕事をし、マラソンなどの行事にも積極的に参加してくれるようになりました。社内木鶏会を続けること

の意義を思わずにはいられません。

誰かが重い荷物を担いでいたら、すぐに手伝ってあげる。弊社はようやく、そういう社風に近づいてきました。しかし、重い荷物を担いでいる人がいる、という現実はそのままです。それを変えるには全社員が部門の垣根を越えて全社的な視点を持つことが欠かせません。そのヒントを与えてくれるのが『致知』だと思っています。これからも『致知』を深く読み込むことで、よき社風の実現に尽力したいと思います。

【会社概要】

- ・会社名 西精工 株式会社
- ・代表者 代表取締役社長 西 泰宏
- ・社員数 251 名
- ・設立 大正 12 年 4 月
- ・事業内容 ナットを中心としたファイン
パーツの製造・販売
- ・住所 徳島県徳島市南矢三町 1-11-4

よくあるご質問

Q 1. 費用はいくらかかるのですか？

費用は、社員一人につき『致知』年間購読料（10,500円/年）のみです。

Q 2. 開催頻度はどのくらいで行うのですか？

一般的に月に1回1時間で行います。

Q 3. 社員には『致知』が難しすぎるのではないか？

日頃使わない言葉や漢字が出てくるので、はじめは意味がわからなかったり、難しいと感じることがあると思います。しかし、社内木鶏を通じて『致知』を読み続けることで、次第に『致知』が面白くなり、文章を読んで感動する心を養うことができた等、多くの喜びの声をいただいております。

Q 4. 「木鶏クラブ」とは違うのですか？

木鶏クラブは、全国各地で自主運営されている『致知』愛読者の会のことで、会社内で実施する社内勉強会の「社内木鶏会」とは異なります。

Q 5. 社内木鶏会の「木鶏」とはどういう意味ですか？

中国の古典『莊子』にある言葉で、立派な闘鶏のいかなる敵にも動じないその様子がまるで木彫りの鶏のようであったという故事に由来します。転じて、何事にも動じず、常に平常心でいられること、また、いかなる境地にあっても、自分の実力通りの力を発揮できる本物の人間のたとえにも使われる言葉です。

導入後のフォロー体制

① 第1回「社内木鶏キックオフ」

初回は必ず致知出版社からスタッフがお訪ねし、木鶏会の導入をサポートいたします。

※指導料等の費用はいただきません。



② 社内木鶏推進リーダー育成塾

各企業に木鶏会が根付くよう、2か月に1回、致知出版社で開催しています。運営のマンネリ化を防ぎ、常に活気ある木鶏会を開催するため、それぞれの企業内に「社内木鶏推進リーダー」を育成することを目的にしています。



③ 社内木鶏全国大会

毎年、全国に約1,200社ある社内木鶏実施企業の中から、5社エントリーしていただき、事例発表をしていただきます。他社の事例に学ぶとともに、全国の木鶏企業との交流を通して活用されています。



④ 社内木鶏経営者会

現在18都道府県で設立されている、社内木鶏経営者会では、地域の実施企業様が集まり、社内木鶏の活性化として様々な取り組みを行っていただいております。

導入費用

年間購読費 10,500円 × 人数

(例) 社員数30名様の場合・・・年間購読費 10,500円 × 30名 = 315,000円

お問い合わせ

お気軽にご相談下さい！



「同業他社の導入事例を教えてください」
「具体的にどんなサポートをしてくれるの？」...など、
ご不明な点がございましたら、お気軽にお問合せ下さい。

 **03-3796-2112**

(営業時間 9:00~19:00)

FAX : 03-3796-2101

メール : shanai-mokkei@chichi.co.jp

ホームページ : <https://www.chichi.co.jp/>



致知営業部員紹介

私たちが責任を持って御社をサポートします！

「同業他社の導入事例を教えてください」
「具体的にどんなサポートをしてくれるの？」
…など、ご不明な点がございましたら、
まずはお気軽にご相談ください！



平峰



板東



神谷



柴田



志藤



仙田



松澤



坂上

社内木鶏公式Facebookもあります！

- * 社内木鶏実施企業様の紹介
 - * 「我が社はこう変わった」バックナンバー
 - * 「私はこう書いてます」（感想文の紹介）
- など、様々な情報を配信中！！

株式会社 致知出版社

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前4-24-9

TEL 03-3796-2112

FAX 03-3796-2101

ホームページ <https://www.chichi.co.jp>